

| | | | | | |
|------|---|------|--------------------------|----|-------------------|
| 施策ID | 1126 | 行政分野 | 健康福祉分野 | 政策 | 総合的な地域コミュニティケアの充実 |
| | 前期基本計画 | | 後期基本計画 | | |
| 基本施策 | 福祉サービスの充実 | | 福祉サービスの充実 | | |
| 施策 | 子育て支援サービスの充実 | | 多様なライフスタイルに対応した保育サービスの充実 | | |
| めざす姿 | 保護者の就労等で保育所入所を必要とする子ども全員が入所できること。及び乳幼児を育てている保護者がライフスタイルに応じた保育サービスを利用できること | | | | |

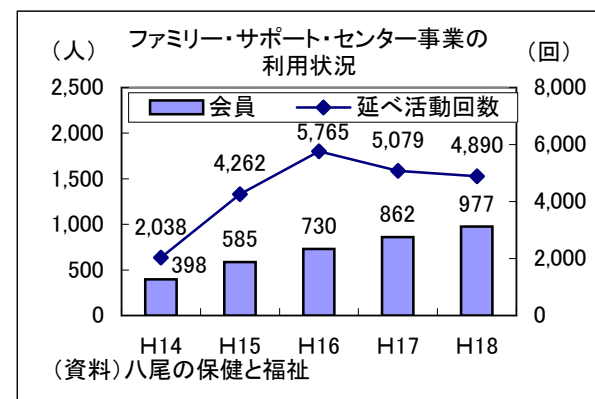
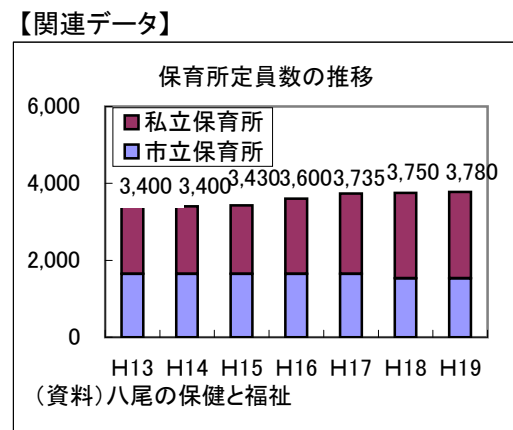
・施策IDや施策名称、施策が「めざす姿」などを示しています。
 ・各グループが担当している「施策ID」(4ケタの数字)をご確認ください。

| | |
|------------------|--|
| 取組 | |
| 【主な実施計画事業】 | |
| 事業名 | 事業の概要 |
| 保育所待機児童解消計画の推進事業 | 公立保育所民営化による入所可能児童数の拡大、私立保育所(園)の定員増、公立・私立保育所(園)における定員外入所(入所の弾力化)の適正な運用や、他市町村の保育所への入所(広域入所)等により、保育所待機児童の解消を図る。 |
| 延長保育事業(公立保育所) | 保護者の就労形態の多様化、通勤時間の増加等に伴う延長保育に対する需要に対応するため、公立保育所において延長保育を実施する。 |
| 病児・病後児保育事業 | 保育所へ通所中の児童が病気回復期または病気回復期に至らないが、当面症状の急変が認められない状態にあり、自宅療養が必要な場合に専用の保育室で預かる事業を行う。 |

・「めざす姿」に向けての主な事業(実施計画事業)を3事業程度掲載しています。

| | |
|-------------------|---|
| 【協働による主な取組】 | |
| 取組名称 | 取組の概要 |
| ファミリー・サポート・センター事業 | 子育てを支援したい人(援助会員)と子育ての援助を受けたい人(依頼会員)による相互援助事業。市民同士の支えあいの活動である。 |
| 各種保育サービス | 保育所における保育のほか、病児・病後児保育事業の委託等を行なっている。 |

・市民・地域・企業等との協働事例を掲載しています。



・関連データを掲載しています(該当するデータがある場合のみ)

| | | |
|---------------------|--|-----------|
| 評価 | | |
| 評価区分 | 取組 | 成果 |
| B(手段に課題) | ○(想定どおりに実施) | △(目標値に未達) |
| 成果(達成したこと) | 保育所入所児童数を増やし、保留児童(入所希望だが入れない児童の総数)を減らすことができた。 H15年度=入所児童数3,528人・保留児童数721人 ⇒ H19年度=入所児童数3,858人・保留児童数402人 また、一時保育事業や夜8時までの延長保育実施保育所が増加するなど、保護者の多様な保育ニーズに応える体制が整ってきた。 | |
| 課題(達成できなかったこととその理由) | 毎年度、保育所に入所できない児童が依然として存在し、特に年度の後半は低年齢児を中心に増加する入所希望に、対応できていない。年度当初から待機児童が発生しているため、年度途中での入所希望者に対応する余力がないことが理由である。 | |

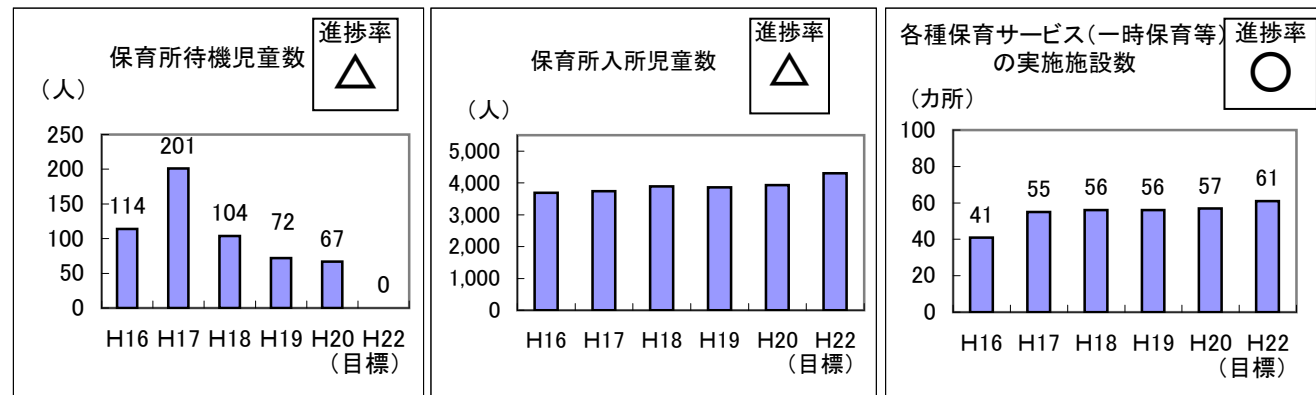
・「取組」と「成果」の視点から、それぞれ4段階(◎、○、△、×)で総括した結果を表示しています。

| 総括 | 取組 | 成果 |
|----|------------|-------------------------|
| ◎ | 想定以上に実施した | 目標値を上回る(近隣・類似都市を上回る) |
| ○ | 想定どおりに実施した | 目標値どおり(近隣・類似都市と同様) |
| △ | 一部で不十分であった | 目標値未達成(近隣・類似都市を下回る) |
| × | 全く実施できなかった | 基準値よりも悪化(H13当時よりも状況が悪化) |

・「取組」と「成果」の総括をもとに、下表から該当する記号(A~D)を表示しています。

| | | 成果 | |
|----|-------|-------------------|-----------------|
| | | ◎または○ | △または× |
| 取組 | ◎または○ | A(順調に推移) | B(手段に課題の可能性) |
| | △または× | C(事業のメニューに課題の可能性) | D(再構築が必要となる可能性) |

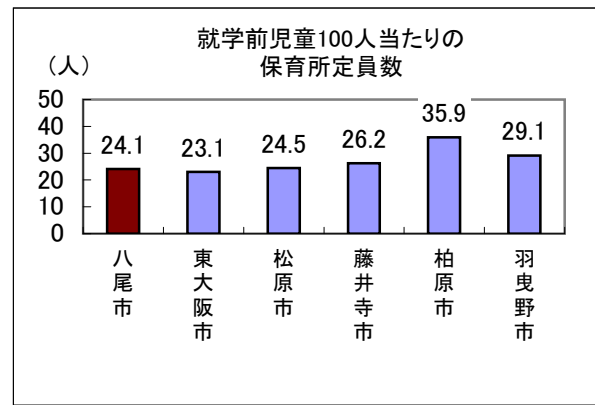
成果指標



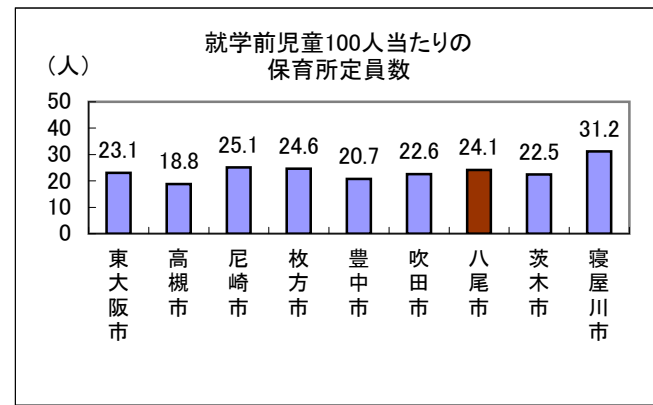
・後期基本計画に掲げる「成果指標」のグラフを掲載しています。
 ・下記の算出式により進捗率を算出し、4区分の記号で評価を表示しています。

| | |
|-----|---|
| 進捗率 | 次の算出式で進捗率を計算しています。 $\frac{\text{見込値(H20)} - \text{実績値(最も古い年度)}}{\text{目標値(H22)} - \text{実績値(最も古い年度)}}$ |
| 評価 | ◎:100%以上 △:0%以上~80%未満 ○:60%以上~100%未満 ×:進捗率がマイナス値 |

近隣都市との比較



類似都市との比較



・近隣都市(八尾市と接している市)、類似都市のデータ(人口規模と大阪市内中心部からの距離が近い市)と比較したグラフを掲載しています。
 (データがある場合のみ掲載)

今後の動向

| | |
|-------------|--|
| 社会経済環境の変化 | 保育所を必要とする理由は様々だが、保護者の就労によるものが多い。そのため、景気動向や雇用情勢による影響を受けやすい(働く場所が多くなれば、子どもを保育所に預けて働くというニーズにつながる)。 |
| この施策の対象者の変化 | 国全体が少子化傾向であり、八尾市の就学前児童の人口が減少傾向にある。しかし、過去5年間をふりかえれば、待機児童の解消に至らず、保育所を希望する家庭が増えているものと考えられる。 |
| 国・府の動向など | 保育所保育指針の改定、保育所最低基準の見直し等保育所を取り巻く諸制度の見直しが予定されており、動向には要注意である。また、認定こども園の導入等を含めて幼稚園と保育所の今後のあり方について、国の動向や就学前児童数の推移を踏まえ検討する必要がある。 |

・社会経済環境の変化、施策の対象者の変化、国・府の動向を掲載しています。

第5次総合計画に向けての課題

| | |
|--------------------|---|
| 施策体制や関連施設に関わる課題 | 昭和40~50年代に設立した保育所が多い。近年に機能更新を行なった施設もあるが、全体的にみれば、機能更新が必要な施設が存在する。 |
| 事業や協働に関わる課題 | ファミリー・サポート・センターにみられるように、市民同士の支えあいの制度が定着してきた。身近なところに頼れる存在がいることは子どもを育てている家庭にとって心強いものであり、充実していきたい。また、きめ細やかな保育サービスの提供は、事業者との連携が欠かせない。 |
| 事業成果や他都市との比較に関わる課題 | 本市は待機児童が多い状況であり、引き続き待機児童解消対策が必要。 |
| 市民ニーズや関係団体に関わる課題 | 保育サービスの充実に向け、今後とも、ニーズを把握し、関係団体との連携を充実していきたい。 |
| 外部環境変化に関わる課題 | 保育サービスに関する法令や国の制度変更(事業内容、補助制度など全般)への対応。 |

・第5次総合計画に向けての課題を掲載しています。